

○保育課程年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話し合いをもとに、事業計画に沿って園評価を行う。

〈子どもの全面発達の保障〉

- ・各年齢の発達をおさえながら、生活づくりや身体づくり、心を育てることを大切に保育してきた。さまざまな行事や日々の保育活動を通して子どもたちが一つ一つ達成感を積み重ね心も身体も大きく成長したことが、年度末の生活発表会やお別れ遠足での子どもたちの姿から感じられた。また、“ジブンデデキタ”ことが自己肯定感の土台となること、子どもの思いや本当の願いを保育者が言葉で受け止め心を立ち直らせる関わりを丁寧にしていくこと、大人との信頼関係を土台にしながらか仲間の中で育っていくこと等を、保育実践や子どもの姿を通して確認できた。日々の生活の積み重ねを土台にしながらか、各年齢の保育で押さえるべきことをしっかり話し合い確認し合って今後の保育に繋げていく。
- ・野菜作りや料理活動、栄養の話など食育にも積極的に取り組み、目の前で大きな一匹のブリをさばいてもらった時には、五感を通じて“いのち”を感じる体験ができた。

〈家庭との連携〉

- ・子どもを真ん中に、子どもにとってどうかという視点で保護者と向き合い、必要に応じて懇談もしながら、子どもたちの成長を共に喜び合ったり悩みを共有し合ってきた。連絡帳やクラス懇談会、朝夕の送迎だけでなく、普段の何気ない会話の積み重ねを大事にしながらか、信頼関係づくりを丁寧にと心がけてきた。
- ・親子遠足や夏祭り、運動会、ひなまつり会、保護者会事業等を通して、クラスや園全体で保護者とのつながりや信頼関係を深めたり、子どもも大人もみんなで響き合うことができた。我が子だけではなくどのクラスの子どもたちもあたたかく見守る雰囲気を感じられ、保護者の園に対するあたたかさを感じている。これからも保護者との共通理解を深めるために対話と共感を大事にしたり、保育を熱く語れる力をつけていく。

〈地域の子育て支援の拠点〉

- ・子育て支援センターでは、日常の支援を大事にしながらか親子への関わりを丁寧にしてきた。また、子育て相談が増えてきている中で、保育の専門性や親支援についての研修会に積極的に参加してきた。
- ・病後児保育はその時々々の個々の状況に合わせてできる限りの配慮をしながらか日々丁寧に保育してきた。繰り返し利用してくれる家庭が多く、安心や信頼を寄せてくれているのを感じる。
- ・子育て支援も病後児保育も、保育理念を土台に“さくらんぼらしさ”を大事にした活動や事業が展開され、地域の多くの親子に支持されているのは嬉しい。

〈職員の資質向上・民主的集団づくり〉

- ・共立福祉会での描画研修や保育プラザ研修など“こんな保育・実践をしてみたい”と憧れるような感動や学びが得られる研修会に多くの職員が参加し、いきいきと実践や子どもの姿を語り合ったり、悩み

ながらも楽しさや喜びを感じながら保育したりする職員の姿に励まされる職員も多かった。職員同士の共感関係がクラスや園全体に広がる空気感となり、それがすべて子どもや保育に返ることを実感した。

- ・自己評価では、どの職員も前向きに努力する姿勢が見られ、各時の目標や任務に対しておおむね達成している職員がほとんどで真摯な振り返りがされていた。また、実践の中で自分の課題を感じたり保育を振り返って反省しながら、さらに学習したり努力している姿もあった。

- ・保育理念やこれまで培われ継承されてきた保育について、もう一度全職員で学び合い、高まりあえる職員集団を目指していく。

〈保育園の社会的責任〉

- ・園の運営に関しては園長が必死に学びながら精一杯努力し、その姿勢を全職員が感じ、職員体制が厳しい時もみんなで同じ方向を向いて頑張ってきたことが園全体の力にもなったし、無事保育園を運営してこれたことは本当に良かった。

- ・保育制度や情勢について学んだことをクラス懇談会やお知らせ等で保護者に伝えてきた。保護者を巻き込んだ保育運動を展開していけるよう、職員一人一人が情勢を学びながら自分の言葉で語れる力をつけていく。

- ・保護者アンケートは98%の回収率で、9割近くの保護者が園に対して信頼や理解を寄せてくれていることがわかった。信頼を寄せているからこそその意見も多く、その期待に応えられるよう、改善点や努力すべき点は真摯に受け止めながら、園の方針や保育理念を丁寧に伝え、互いの思いを理解し合っていく関係を築いていく。(詳細は別紙)

- ・保護者アンケートだけでなく、園に寄せられた要望や苦情については第三者委員とともに考え合ってきた。第三者委員からは、共立福祉会の保育理念に誇りと自信を持って今後も保育を続けていくとともに、どのような意見からも課題や問題提起をきちんと見出し、よりよい園運営や事業内容に活かしていくために努力していくよう伝えられた。

〈地域・専門機関との連携〉

- ・小学校や療育機関との連携、実習の受け入れ、地域の人との交流や子育てに関わる団体との連携など積極的に取り組んできた。また、県保育内容等検討委員会や市子ども子育て会議、支援ネットワーク会議、南アルプス市の子育てを考える会、山梨保育運動連絡会等、さまざまな関係機関や団体との連携の中で情勢や制度についての学習や検討を行ってきた。市子育て支援課との懇談も行き、保育現場や子育て環境の実態や課題を共有できたことは良かった。